

# タイトル：『汐製菓会社の新作 65 マフィン5』

---

## 【登場人物】

- 汐（30代）：汐製菓会社の社長。奇想天外なアイデアを次々に繰り出す、お菓子業界の革命児。明るく楽天的だが、ときどき周囲を困惑させる。
- 塩田（30代）：汐の秘書。真面目で心配性だが、内心では社長の新作に興味津々。実はお菓子マニア。
- 開発スタッフA（20代）：汐製菓の若手スタッフ。アイデアに意欲的だが、実行には不安がある。
- 開発スタッフB（30代）：経験豊富なスタッフで、実現可能性を重視する。
- 観客A/B/C/D：新作発表会に参加するメディアや観光客。

## 第一幕…奇抜な発想は突然に

### 場所…汐製菓会社の会議室

（汐が大きな西瓜の模型を持って会議室に現れる。塩田は机に資料を並べながら、汐の動きを警戒している）

汐：「塩田、ついにやる時が来たぞ！新作の発表だ！」

塩田（警戒しながら）：「社長、また何かすごいアイデアが浮かんだんですね。前回の“ピーマンプリン”の失敗、覚えてますか？」

汐（自信満々に）：「もちろん覚えてるさ！あれはただの前哨戦だった。今回は本番だ！見ろ、この西瓜！」

（汐は自慢げに西瓜を掲げる）

塩田（不安そうに）：「西瓜、ですか……。もしかして、これをそのまま使うわけじゃないですよね？」

汐（胸を張り）：「そうだ！ 次の新作は『西瓜味のマフィン』だ！」

塩田（一瞬絶句し、その後思わず吹き出しそうになるが必死にこらえる）：「え、ええ…マフィン、ですか？ 西瓜味の…？」

汐：「そうとも！ 見た目は西瓜、中はふわふわのマフィン。皮は緑のクリームで表現して、種はチョコチップで再現するんだ！ まさに夏の新定番、だろう？」

塩田（困惑しながら）：「それ、誰かが食べてみたいと思うんでしょうか…？」

汐：「面白さが大事なんだよ、塩田！ 人は驚きとインパクトに惹かれるんだ！」

開発スタッフA(横から)：「社長、本当にこれで大丈夫なんですか？前回の反省を活かして…。」

汐：「だからこそ、西瓜が必要なんだ！このインパクトで客を引きつける！」

塩田(内心)：「…いや、さすがにこれは驚きを通り越して怖いです…。」

---

## 第2幕：試作、そして現場の混乱

場所：汐製菓のキッチン

(汐と塩田がキッチンを訪れる。試作チームがマフィンの試作に取り組んでいるが、表情は全員曇っている)

開発スタッフB：「社長、こちらが試作の第一弾ですが…。」

（スタッフはテーブルの上に置かれた「西瓜マフィン」を見せる。見た目は赤い生地、緑のクリーム、そして黒いチョコチップが散らばっている）

汐（興奮して）：「完璧だ！これぞ我が汐製菓の新たな挑戦！」

塩田（不安そうに見つめながら）：「本当にこの見た目で大丈夫なんですか…。まるでおもちゃみたいですけど。」

開発スタッフA（ぼそっと）：「味も相当おもちゃっぽいですけどね…。」

汐：「塩田、まずは君が試してみてください！どうだい？驚くこと間違いなしだ！」

塩田（恐る恐る手を伸ばし、一口食べる。顔が一瞬固まる）：「あ、あの…社長。なんとうか、西瓜とマフィンがケンカしてますね…。」

汐：「ケンカ？それは良いことだ！どちらも存在感が強いってことだろ？」

開発スタッフB（不安そうに）：「でも、食べるのが怖いです…。」

塩田（内心）：「いや、そんな意味じゃないんですけど…。」

（次の試作品を取り出す）

開発スタッフA：「じゃあ、次は“西瓜ミルク”も試作してみますか？」

汐：「それだ！西瓜ミルクとマフィンのコンビ！夢のようだ！」

開発スタッフB（ため息）：「社長、ちょっと待ってください。そのミルクも味見する必要がありますから…。」

（開発スタッフが試作を開始するが、失敗続きで厨房が混乱に）

## 第〇幕…国内外からの注目が集まる

### 場所…新作発表会の会場

(華やかな発表会場。メディアやインフルエンサーが集まり、汐製菓の新作に注目している)

司会者…「皆様、お待たせしました！汐製菓の新作『西瓜マフィン』の発表です！」

(スクリーンに西瓜マフィンの画像が映し出され、会場がざわつく)

観客A(日本人)…「西瓜の…マフィン？想像もつかない。」

観客B(アメリカ人)…「ワオ！スイカのマフィン！？クレイジーだぜ！」

観客○(フランス人)：「スイカとマフィンの組み合わせは驚きです：食べてみなければわからない。」

(観客たちは戸惑いながらも、配られた西瓜マフィンを手取る)

観客ロ(韓国人)：「これ、どうやって食べるの：？見た目はおもしろいけど。」

観客㊦(アメリカ人)：「オーマイガー：不思議な味だな。でも悪くない！」

(塩田が観客の様子を見て、心配する)

塩田(小声で)：「これ、大丈夫かな：。逃げる人いないかしら：。」

観客㊮(フランス人)：「口の中でスイカがはじける感じ：うん、独特だけど、意外といけま  
す。」

(SNSで#西瓜マフィンがトレンド入りする)



開発スタッフA(興奮して)：「社長、SNSの反応がすごいです！世界中の人が投稿しています！」

汐(満面の笑みで)：「見る！これが我が汐製菓の力だ！もっと広めよう！」

(場面が切り替わり、メディア取材が始まる)

記者：「汐社長、どうして西瓜を選んだのですか？」

汐：「夏といえば西瓜！食べるたびに笑顔になる味にしたかったからです！」

塩田(心の声)：「社長のこういう所、好きだけど…ちょっとだけ不安です…。」

---

第4幕：西瓜マフィン、世界を駆け巡る！？

（発表会后、SNSやニュースで話題となり、世界中の注目を集める）

塩田（オフィスでスマホを見ながら）：「社長、  
#西瓜マフィンがトレンド入りしてますよ…。まさか、こんなに話題になるとは。」

汐：「だから言っただろ！チャレンジこそが成功の鍵なんだよ！」

塩田：「でも、次はもっと普通の味でお願いしますね…。例えば…チョコとか。」

汐（ニヤリと笑い）：「次の新作は『焼きいも味マフィン』だ！」

塩田：「またですか！？焼きいもって…。でも、何だか気になりますね。」

汐：「そうだろう？次も絶対ヒットするに違いない！さあ、準備を始めよう！」

(～人が新しい企画を前に意気投合し、オフイスのドアを閉める。背後には、試作中の「焼きいもマフィン」が並んでいる)

---

## 第9幕…次なる挑戦へ

### 場所…新作試作室

(汐と塩田が焼きいもマフィンの試作を行っている。開発スタッフも加わり、賑やかな雰囲気  
気が漂う)

開発スタッフフロ…「社長、焼きいもマフィンのアイデアですが、どのように味付けをしますか？」

汐…「シンプルに焼きいもを使うのがいいだろう。あとは、バターをたっぷり使って、香ばしさを引き出すんだ！」

塩田（不安そうに）：「社長、また西瓜の二の舞にならないか心配です…。」

汐：「心配するな、塩田。今回は計画的だ！前回の教訓を活かすんだ！」

（焼きいもを調理する音が響く。スタッフたちが興奮しながら作業している）

開発スタッフA：「焼きいも、いい匂いがしてきました！これは期待できそうです！」

塩田（ホツとしながら）：「よかった、今回はまともな試作になりそうですね。」

（試作が進む中、汐がひらめく）

汐：「そうだ！焼きいもマフィンにはトッピングとして、きな粉と黒蜜も加えよう！これぞ和風マフィンだ！」

塩田（目を丸くして）：「また新しい発想ですね…。今度は誰も驚かないといいですが。」

## 第の幕…新作発表会へ向けて

### 場所…発表会準備室

（新作発表会の準備が進んでいる。汐と塩田が最終確認をしている）

汐…「新作の焼きいもマフィン、みんなが楽しみにしているぞ！塩田、君の準備はどうだ？」

塩田（メモを見ながら）…「司会の流れや、メディア対応もバッチリです！でも、試食が不安です…。」

汐…「大丈夫、今回は西瓜の時とは違う！きつと好評だ！」

（発表会が始まる。観客が集まり、緊張感が漂う）

司会者：「皆様、本日は汐製菓の新作『焼き  
いもマフィン』の発表です！」

（会場がざわつく）

観客A（日本人）：「焼きいもマフィン？ど  
んな味なんだろう。」

観客B（アメリカ人）：「焼きいも？聞いたこ  
とないけど、面白そうだ！」

（汐が登壇し、観客に向かって笑顔を振りま  
く）

汐：「皆さん、焼きいもマフィンは日本の伝  
統的な味と、洋風のお菓子を融合させた一品  
です！さあ、味わってみてください！」

（観客が焼きいもマフィンを試食する）

観客C（フランス人）：「ああ、これは……！香ば  
しくて甘い、素晴らしい味だ！」

観客ロ（アメリカ人）：「オーマイガー、これ美味しい！マフィンと焼きいものコラボが最高だ！」

（塩田は安心し、笑顔になる）

塩田（小声で）：「やった、今回は成功したみたいですね…!!」

---

## 第ㄥ幕…新たな挑戦と未来

（新作発表会が成功裏に終わり、汐と塩田が喜び合う）

汐：「やった！今回の焼きいもマフィン、絶賛だ！」

塩田：「本当に良かったですね、社長。これで新しい展開が見込めそうです。」

（外の景色が映し出され、多くの人々が汐製菓の店舗に並んでいる）

汐（感慨深く）…「これからも挑戦し続けよう！次は何を作るか、もう考えているんだ。」

塩田（驚いて）…「また新作ですか！？今度はどんな奇抜なアイデアですか…？」

汐…「次は『梅干し味のマフィン』だ！日本の味を世界に広めるんだ！」

塩田（笑顔で）…「社長、それはちょっと…挑戦が過ぎる気がしますけど…。」

汐…「だからこそ、面白いんだよ！面白きことも無き世を面白く、さあ、次に行こう！」

（～人は意気投合し、明るい未来を見つめる）

---

## エンディング

（エンディング曲が流れ、汐と塩田が軽快に話しながら退場する）



汐：「次も絶対成功だ！さあ、やるぞ、塩田！」

塩田：「はい、社長……！」（笑顔）

【終】